

# 上川名地区資源保全隊【柴田町】

～ 町で一番の美しいムラに ～

本地区は柴田町の北東部に位置し、地区の北東部は山林で岩沼市境になり、西部には田園地帯が広がります。町内最大の上川名貝塚は、縄文時代の貝塚として日本でも有名です。

平成19年に地区の将来の農業を考える「上川名未来農業を考える会」を発足し、同年4月から農地・水環境保全向上対策に取り組み始めました。



## 【組織概要】 ※H29実績

取組開始：平成19年度  
 構 成 員：43世帯  
 取組面積：49.8ha(田49.8ha)  
 活動内容：  
 農地維持支払  
 資源向上支払(共同活動)

## 取組にあたって

### 【課題】

近年の人口減少や農業の担い手の高齢化により集落の共同作業等が困難になり、地域の「結い」の希薄化や遊休農地の増加等が懸念されていた。

### 【保全活動】

農地維持支払と資源向上支払(共同活動)の活動を通じ、遊休地の保全等は区民みんなでやろうと意識が変化。

「町一番の美しいムラにしたい」という機運も高まり、区全体で農地の維持管理や植栽活動等による景観保全に精力的に取り組んでいる。

## 取組の内容

■平成24年から、約2haの水田遊休地を活用し、ヒマワリやコスモスを作付けして集落内の環境美化に取り組む。

■生物の多様性や農業農村が担う役割等を次世代へつなぐために、定期的に地域の子も達と水路の生きもの調査を実施。

■ホタルの生態系保全にも取り組み、6月にはホタル鑑賞会を開催。地域内外から訪れる見物客向けに、看板や水路も整備。

■貝塚が多い地域であることから、貝塚周辺の公園化や里山ハイキングコースの整備も行い、地域の自然と歴史の再生保全に取り組み地域活性化を図る。

## 取組の効果

### ■体制の構築

当保全隊の設立を契機に、“地域資源を活用した地区外との交流を活発にして地域の活性化を図ろう”との思いが高まり、保全隊の代表等有志26名で「上川名地区活性化推進組合」を設立。この組合の設立により集落内での話し合いが活発化し、様々な活動に取り組める体制となった。現在は保全隊の構成員として活動に参加している。

### ■女性の活躍と地元食材の活用

上記の「上川名地区活性化推進組合」の設立を機に、6次産業化を目指して女性部を中心に農村レストラン「縄文の幸」を開設。地元食材を活用した郷土料理を提供し、食文化の継承にもつながっている。



【植栽活動】



【ホタル看板】



【生きもの調査】



【農村レストラン「縄文の幸」】

